

日本英学史学会 中国・四国支部

令和3年度 第2回(通算84回) 研究例会のご案内

令和3年度第2回(通算第84回)支部研究例会を対面とオンラインのハイブリッド(ハイフレックス)形式で開催いたします。今回の研究例会では、研究発表が2件予定されています。ふるってご参加くださいますよう、よろしくお願いいたします。

日時： 2021年12月11日(土) 13:00 受付開始
方法： 対面、およびオンライン会議システム Zoom によるハイフレックス開催
会場： 安田女子大学1号館1505教室(広島市安佐南区安東6-13-1) ★対面実施会場
参加費： 会員、非会員とも無料

開会行事(14:00~14:05) 支部長挨拶

研究発表(1)(14:05~15:15)

「昭和10年代の旧制中学における英語教育

—福岡県立中学修猷館の自作教材に焦点を当てて—

安部 規子(久留米工業高等専門学校)

【概要】中学修猷館では昭和7年から昭和14年の間に4冊の自主英語教材が作成された。英単語集、英作文問題集(例文集)、構文中心の英文解釈問題集、そして内容中心の英文解釈問題集である。今回の発表では、4作目の内容を中心とした英文解釈問題集に焦点を当て、その編集方針や内容、リーダービリティ、当時の生徒の感想等について調査結果を報告する。

研究発表(2)(15:30~16:40)

「英語教育早期化のアジェンダ設定におけるアクター群の言説

—臨教審第二次答申までの流れ—

平本 哲嗣(安田女子大学)

【概要】早期英語教育の流れを作った現代的な起源としては1986年の臨時教育審議会第二次答申が知られている。本発表では、多様なアクター群の言説を踏まえつつ、臨教審における英語教育早期化提言に至るまでの歴史的経緯を、Kingdonの提唱する「政策の窓」モデルに基づき考察する。

閉会行事(16:45~16:50) 副支部長挨拶

研究例会の参加申し込みについて

12月4日(土)までに、参加形態(対面・オンラインの別)を明記の上、電子メールでお申込みください。(メールアドレス eigaku@tom.edisc.jp) 後日、オンライン参加の方には参加用のURL(アクセス用アドレス)をお送りします。